



- ◆ 今回の特報は、6/17発行の「ナシ特報 No6」の薬剤散布（和梨散布目安：有袋 7/5～10・無袋 7/5～10、西洋梨散布目安：有袋 7/10 前後・無袋 7/10 前後）が完了してから行う防除を記載しています。
- ◆ 裏面には新梢管理・夏期管理について記載しています。

● 和梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意して下さい。）

【有袋】7月中下旬の薬剤散布（前回より15日後）

散布時期	7月20日～25日頃 ※左記は目安となります	◆ 散布日：7月 日
散布薬剤	水	100ℓ
	展着剤	10ml
	ダニコングフロアブル	50ml（前日、1回）
	キノンドー顆粒水和剤	100g（3日前、9回）
	劇オリオン水和剤40	100g（3日前、2回）
対象病害虫	黒斑病、黒星病、輪紋病、ハダニ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類、アブラムシ類	
散布量	10a当り：450ℓ以上	
注意事項	① <u>シンクイムシ類対策</u> ：オリオン水和剤に代えて、劇バリアード顆粒水和剤2,000倍（前日、3回）を使用する。 ② 【代替】通常展着剤に代えて、ササラ2,000倍を使用すると薬液の広がりが良くなり、散布後の乾きも早くなる効果がある。 ③ オリオン水和剤40は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑を持参して下さい。	

【無袋】7月中旬の薬剤散布（前回より10日後）

散布時期	7月15日～20日頃 ※左記は目安となります	◆ 散布日：7月 日
散布薬剤	水	100ℓ
	展着剤	10ml
	ダニコングフロアブル	50ml（前日、1回）
	キノンドー顆粒水和剤	100g（3日前、9回）
	劇オリオン水和剤40	100g（3日前、2回）
対象病害虫	黒斑病、黒星病、輪紋病、ハダニ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類、アブラムシ類	
散布量	10a当り：450ℓ以上	
注意事項	※上記（有袋防除）の注意事項同様。	

● 西洋梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意して下さい。）

【無袋】7月下旬の薬剤散布（前回より10日後）

散布時期	7月20日前後 ※左記は目安となります	◆ 散布日：7月 日
散布薬剤	水	100ℓ
	展着剤	10ml
	ダニコングフロアブル	50ml（前日、1回）
	キノンドー顆粒水和剤	100g（3日前、9回）
	劇オリオン水和剤40	100g（3日前、2回）
対象病害虫	輪紋病、シンクイムシ類、ハマキムシ類、ハダニ類	
散布量	10a当り：600ℓ	
注意事項	① オリオン水和剤40は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑を持参して下さい。	

【7月中下旬の重点作業】

① 土壌水分管理（土壌水分の激変を緩和）

梅雨明け後の急激な土壌乾燥防止 ⇒ 樹冠下に敷きワラ等のマルチを早めに行ってください。

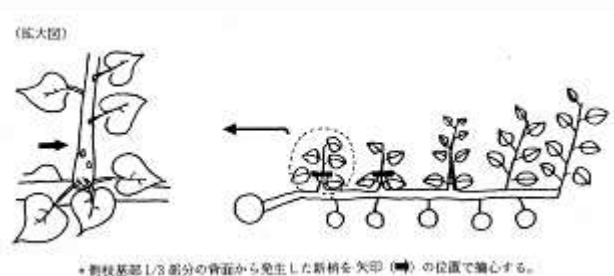
② 雑草管理：害虫の発生源となりますので、園内除草を徹底して下さい。

除草剤使用基準：バスタ液剤（水 100ℓ 当たり バスタ液剤 500 ml）収穫前日まで、3回以内
 ザクサ液剤（水 100ℓ 当たり ザクサ液剤 500 ml）収穫前日まで、3回以内

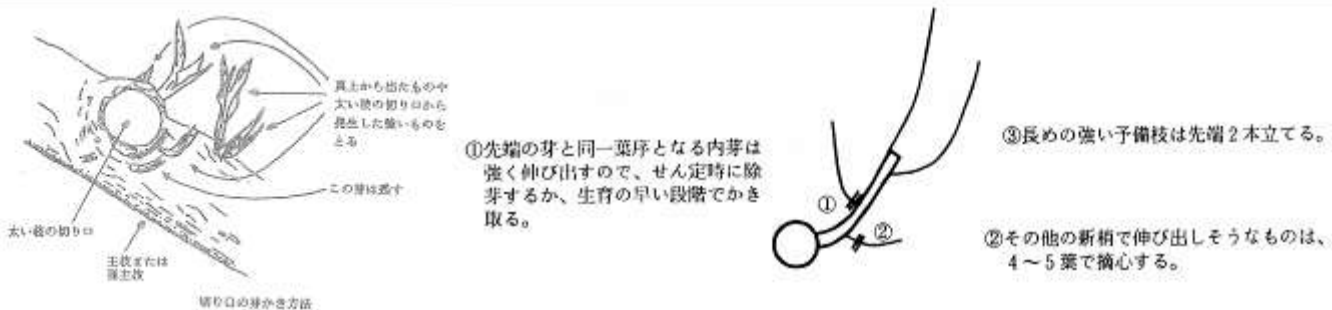
◆ 南水の栽培管理について

● 新梢管理

- ① 徒長枝整理（幹部、主枝分基部中心）
- ② 必要により1芽2新梢以上の1本化整理
- ③ 徒長枝候補枝の棚へのくぐらせと45℃誘引
- ④ 摘芯



- 短果枝からの新梢伸長と長果枝となるものに対し実施する。
- 果そう葉4枚程度残し摘芯する。（4芽殺し）
- その後も伸びるので繰り返し摘芯する。



● 夏季管理

- ① 主枝(3年枝部分)が立ちすぎている場合は、7月上中旬までに誘引する。
- ② 主枝延長枝は、添え竹等により棚面から30~40cm上げて管理する。
- ③ 主枝先端が強風等で欠落した場合は、近くの横芽から発生した新梢を主枝延長枝として利用する。
- ④ 主枝の半分から先には主枝を負かさない弱めの新梢をなるべく多くおく。
- ⑤ **主枝の棚付け準備：折損を防ぐため枝が柔らかい9月中にクセをつける。（冬季の棚付け作業を容易にするため）**
- ⑥ 主枝先端はせん定時に誘引しやすいように枝が柔らかい9月中に縦支柱からはずして斜め支柱に沿って軽く誘引する。（棚付け前）

